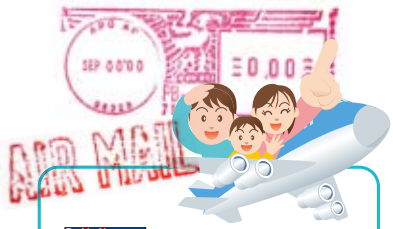
海外生活レポート⑤



【オーストラリア】
タスマニア

レポーター
百野 亜津子さん
（びゃくのあつこ）

タスマニアの生活

オーストラリアの永住権を取ったのは1991年。1986年にワーキングホリデーで来たのがタスマニアの生活の始まりだ。

現在の生活は

海の調査（スノーケリングして遊んでいるだけ？）、学生（日本で大学を卒業しているのだが、まだ学士過程で、勉強をしている）、農業（商売にはなっていない）、翻訳、原稿書き、絵を描くなどである。今年も小学校時代に少ししかやったことがないサッカーに挑戦。社会人チームの競技に参加している。

農業をやりたがっていた連れ合いがこの世を去ってもう4年。町には不動産が高騰する前に買った家と、車で1時間半ほどの田舎に25エーカーの農地がある。トタン屋根の小屋では雨水タンクで貯めた水が蛇口をひねれば出るし、電気も電話も通じているのでどちらでも一応生活できる。

今も現役大学生

年は48歳。大学では年上の友達も年下の友達もいる。マトリック・カレッジという、日本の高校に当たる2年間の学校を卒業してすぐに入ってくる子の数が、やはり圧倒的に多いが、成人の数もかなりなもので、留学生も多い。このごろはオーストラリア本土だけではなく、はるばるタスマニアまで来る日本人の留学生も増えたようだ。

▲田舎の小屋

▲海の野生生物

授業料の約半分は国の補助があり、国籍を取っていれば残りが借りられる。所得が少なければ学生生活資金ももらえるはずだ。

学生はシェアハウスをすることが多い。1軒3部屋の家を3人で借りて、家賃を分担したりする。こちらで仲の良い女友達とは1986年にワーホリの際、シェアハウスをしていたことがきっかけで仲良くなった。しかし、近年は財政的な理由で自宅から通う学生が増えているようだ。

私の中のタスマニアと日本の比率

このところ1年に3週間ほど日本に行き、あとはタスマニアという生活が続いている。日本にいるときは95%日本語。タスマニアでは95%英語の生活。最近になってようやく「嵐」の存在を認識するようになり、姉に「立派な日本のおばさん」だと褒（ほ）められた。

家では日本食を食べることが多い。ジャガイモより米のほうが安い。実は子どものときにシドニーに住んでいたのだが、その頃に比べて、日本の食材が手に入りやすくなった。醤油も米もスーパーで売っていて、味噌も、中国人のやっているアジア食品店で手に入る。学食では、ちょっと奇妙な太く巻いた寿司ロールも売っている。しかし、一番の売れ筋はおそらくフライドポテトにグレービー。友達に寿司をご馳走するときには妙に気合が入って昆布で出しをとるなど、結構半日仕事である。日本人は皆寿司を作るのが得意だと思っているオーストラリア人も結構多いので閉口している留学生も多いはずだ。

タスマニア生活のあれこれ

年に1回ほど行く神奈川での暮らしとの大きな違いは、電車が無いこと。おまけにバスも田舎と町の間では学校がある日だけ1日1本。自家用車に頼ることが多い。

遊漁権が確立されていて、年間に70ドルほどで、漁師さんに気兼ねすることなく漁ができる。種類によっては遊漁権はいらない。海での釣りは確かライセンスがいらなかったと思う。あわびを採ったり、雲丹を採ったりしている。

夏はブッシュファイアーの警戒が常に必要だ。春に雨が多かったので草が延び（燃料が多くなる）、この間の夏はどうなることかと思った。2年前の夏のビクトリア州での火事では100人を超える死者がでた。このとき出された警報は「逃げるか、とどまって守るかを早めに決めろ」から「危ないときには、とにかく逃げろ」と変わっていった。

去年の12月に日本に1ヵ月ほど滞在した後、こちらで春菊や三つ葉や紫蘇や大根を育てている。店ではめったに売っていないのだ。夏にはカシスを摘んだ。

今はもう秋、この間まいたソラマメが芽を出した。

（文・写真提供：百野亜津子）